

持続的な価値創造 — 「質を伴った成長」へ

2025 年：「緊急危機対策年」 — 変化をチャンスへ …………… 38

「守り」

ビジネス体質強化：ブリヂストン独自のデミング・プラン …………… 40

事業再編・再構築(第2ステージ) …………… 41

「攻め」

コア事業：プレミアムタイヤ事業 — 断トツ商品力強化 …………… 42

ENLITEN と BCMA の融合による価値創造の加速 …………… 44

【特集】BCMA — 「モノづくり」の本質を追求する

「シン・彦根モデル」 …………… 45

地道なグローバルビジネスコストダウン活動強化 —

ブリヂストン DNA …………… 46

【特集】サステナブル調達 …………… 48

【TOPICS】グローバル経営リスク：6PPD / TRWP への対応 …………… 53

サステナブルなグローバルモータースポーツ活動を

中核としたサステナブルなプレミアムブランドの構築 …………… 54

成長市場「質を伴った成長へ」 …………… 56

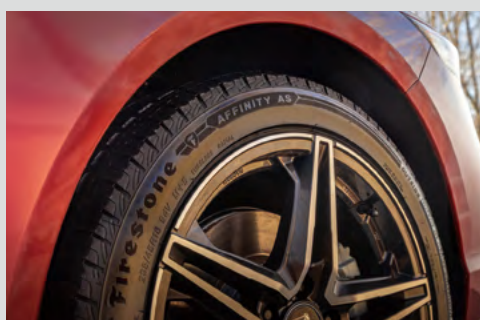
米国事業強化：消費財ビジネス再構築 …………… 56

インド消費財ビジネス …………… 58

生産財系 BtoB ソリューション …………… 59

共創・イノベーション リサイクル事業 — タイヤを原材料に「戻す」 …………… 63

【特集】Bridgestone E8 Commitment を軸とした価値創造 …………… 64





持続的な価値創造 — 「質を伴った成長」へ

2025年「緊急危機対策年」において「変化をチャンスへ」変え、「成長市場」から「質を伴った成長」をスタートさせていきます。2026年には、「真の次のステージ」へ歩を進め、激動下でも勝ち抜く「強いブリヂストン」に進化していきます。そして、ブリヂストン創立100周年の2031年に向けて、中期事業計画(2027-2029)においては、グローバルへ「質を伴った成長」を拡大していきます。

2025年:緊急危機対策年(意味性強化): 変化をチャンスへ

軸「熟慮断行」: “やると決めたことをしっかりやり抜く”

「守り」と「攻め」で、将来への成長に向けた道筋を切り拓く

守り

- 事業再編・再構築(第2ステージ)
- ビジネス体質強化
厳しい規律をしっかり持った経営を実行
- グローバルで強いビジネス基盤を構築
「ブリヂストン独自のデミング・プラン」活用強化
現物現場、対面コミュニケーション、チームワーク強化
- 米国関税影響の緩和策 × 「変化をチャンスへ」
- 国別ビジネス構造変化への対応

攻め

- 断トツ商品の拡大・断トツ商品力向上
 - ENLITEN Gen1・Bridgestone MASTERCORE
 - 米国消費財ビジネス再構築「マルチブランド戦略」
 - Bridgestone強化
 - Firestoneリバイタライゼーション
- 地道なグローバルビジネスコストダウン活動強化
- 生産財系BtoBソリューション事業の基盤強化
リアル × デジタルを軸に、断トツ商品とソリューションを組み合わせ
「現物現場の活動強化」

2030年 長期戦略アスピレーション 27MBP 質を伴った成長 — グローバルブリヂストン全体

激戦下でも勝ち抜く「強いブリヂストン」

2026年:真の次のステージへ

成長市場:「質を伴った成長」へシフト・「強いビジネス体質」へ



良いビジネス体質
を創る



良いタイヤを創る



良いビジネスを創る



良い種まきを実施し、
新たなビジネスを創る

チームワーク

現物現場

攻め

■断トツビジネス体質:

「リーン&エクセレントオペレーション」基盤の上で成長路線へ
経営・業務品質の向上を追求—ブリヂストン独自のデミング・プラン
グローバルビジネスコストダウン活動/BCMA推進 — 次のステージへ
人的創造性・生産性向上

■断トツタイヤ:

ENLITEN Gen1 ⇒ Gen2準備 / Bridgestone MASTERCORE Gen2準備
- 米国消費財ビジネス再構築 — 「マルチブランド戦略」
- Bridgestone強化、Firestoneリバイタライゼーション

■断トツビジネス:

生産財系BtoBソリューション強化・拡大
⇒モビリティテック事業構築「戦略事業」
「リアル×デジタル」を軸に推進

■断トツサステナブルなプレミアムブランド構築スタート

サステナブルなグローバルモータースポーツを
コアとしたコーポレートブランディング

質を伴った成長へ

質+量

米国・インド消費財
OR / AC

質

欧州・日本

プレミアム PS-HRDビジネス
強化・拡大“追い風”継続

マルチブランド戦略

— Firestone /

Bridgestone (Better領域)

活用強化

⇒「新たな脅威」への対応

守り

■事業再編・再構築(第2ステージ終了) / リーンなビジネス基盤構築

■国別ビジネス構造変化への対応 × 「変化をチャンスへ」

ビジネス体質強化:ブリヂストン独自のデミング・プラン

ビジネス体質強化に向けて、2024年から再確認している「ブリヂストン独自のデミング・プラン」に沿った活動を、もう一段強化しています。

ブリヂストン独自のデミング・プランは、品質管理活動に全社的、総合的に取り組む会社と与えられる最高の栄誉と産業界で評価されている「デミング賞」の受賞を目指し、ブリヂストンが1960年代より推進した経営・業務品質の向上に向けた活動です。ブリヂストンは1960年代に、経営の近代化、品質経営活動の強化を推し進めた際、1964年に、この活動を独自に「デミング・プラン」と名付け、推進本部を設置して取り組みを強化しました。1968年には「デミング賞実施賞」を受賞し、現在も活動を継続しています。

ブリヂストン独自のデミング・プランの基本思想である「良い品質の製品は、良い体質の会社から生まれる」、基本動作である「PDCA」、「なぜなぜ分析」、「標準化」、「データでものを言う」、「重点管理を行う」の5つの合言葉を、ブリヂストンで働くにあたっての考え方・行動の「型」として、グローバル各職場で継続強化しています。

さらに対面業務・コミュニケーション、ブリヂストンの強みであるチームワークを再強化しています。これらの活動を通じて業務品質、創造性・生産性の向上を追求しています。

(ブリヂストン独自のデミング・プランを軸に、現物現場での継続的改善とイノベーションを追求したブリヂストンらしい価値創造事例:P65参照)。

ブリヂストン独自のデミング・プラン:考え方・行動

「型」をもう一度＜守・破・離＞

基本思想

良い品質の製品は、良い体質の会社から生まれる

5つの合言葉

- ① PDCAを身につけよう
- ② なぜなぜ分析(WHY-WHY-WHY)
- ③ 生きた標準化を進めよう
- ④ データでものを言おう
- ⑤ 重点管理を行う



事業再編・再構築(第2ステージ)

グローバルで事業再編・再構築(第2ステージ)を2025年中にやり抜き、ビジネス体質を強化することで、「質を伴った成長」へつなげていきます。

事業環境の変化を受けて、2024-2025年でBRIDGESTONE WEST(欧米)を中心に、グローバルで事業再編・再構築(第2ステージ)の検討と実行を進めています。特に、業績・事業環境共に厳しい状況にある欧州事業と南米事業については、「事業の形を変える」再構築に着手しました。欧州事業については、ベルギー・ランクラーのリトレッド工場を閉鎖するとともに、2025年4月には、欧州におけるタイヤ業界の構造変化に対応し、生産体制を最適化するため、スペインの2工場において、生産能力を縮小する協議を開始しました。また、欧州全域で業務プロセス改善を軸に、組織体制の統合・シンプル化をもう一段進めています。南米事業においても、各生産拠点の生産能力及び人員削減に着手しています。

北米事業においても、2025年1月にトラック・バス用タイヤを生産する米国ラバーン工場の閉鎖を発表し、同時に、農機用タイヤを生産する米国デモイン工場における生産能力削減、本社機能、販売・オペレーション機能の人員削減など、事業拠点とコストの最適化を進めています。

米国事業拠点の最適化を図り、競争力を強化し、ビジネスの質を向上させることで、プレミアムタイヤ事業を強化していきます。ブリヂストンは、「最高の品質で社会に貢献」という使命

のもと、1988年のファイアストーン社の買収以来、米国の社会及び経済の発展に寄与してきました。1990年代及び2010年代には、テネシー州のウォーレン工場やサウスカロライナ州のエイケン工場などの新工場投資も実行しました。さらに、テネシー州ナッシュビルの米州地域本社やその他の事業拠点、オハイオ州アクロンの技術センター、バンダグ社のリトレッド拠点、約2,200の直営小売店舗の販売サービスネットワークなど、米国における事業拠点を継続的に最適化し、地域社会への貢献も推進しています。今後も、生産や小売を含めた販売を強化・拡充していくことで、米国の社会及び経済に貢献し、人とモノの移動を支え続けていきます。

BRIDGESTONE EAST(日本・アジア)においても、EAST全体の組織統合・シンプル化を実行するとともに、厳しい事業環境・業績が続く日本タイヤ事業の重構造組織のリーニ化と、化工品・多角化事業再構築を加速していきます。

タイでは、2023年にランシット工場の生産を終了し、拠点を集約しました。2024-2025年には、REP(市販用)卸し・小売／管理機能のリーニ化など再構築を実行しています。

2024年にトラック・バス用タイヤビジネスから撤退した中国では、乗用車用タイヤ2工場体制で、中国国内で「創って売る」を完結する体制を構築しており、乗用車用プレミアムタイヤビジネスへのフォーカスを強化しています。

● 事業再編・再構築: グローバル全体像

WEST		EAST	
欧州		日本	
第1ステージ	南アフリカ ポート・エリザベス工場(バイアスタイヤ-20年) フランス ベチューン工場(PSタイヤ-21年)	第1ステージ	スポーツ・テニス事業撤退(20年) - タイ テニスボール工場譲渡(21年) コンベヤベルト事業撤退(21年) 防振ゴム事業譲渡(21年) 化成品ソリューション事業譲渡(21年) ブリヂストンスポーツアリーナ株式会社譲渡(22年) ブリヂストンサイクル騎西工場(21年)
第2ステージ	「さらに欧州事業の形を変える — 統合&シンプル化」 ・ リトレッド:ベルギー ランクラー工場閉鎖の意図開示(24年11月発表) ・ TB:ビルバオ、フエンテサンミゲル(含むAG)工場生産能力縮小の協議開始(25年4月発表) ・ 小売:再構築検討(25年~26年) ・ 生産・販売・技術センター・コーポレート機能:統合・効率化検討(24年4Q、25年~)	第2ステージ	「重構造」組織のリーニ化に着手開始 REP卸し・小売／本社管理機能のリーニ化(25年) グループ会社、内製事業再構築(25年) 化工品・多角化事業再構築(25年)
北米	南米	アジア・大洋州	
第1ステージ	米国屋根材事業 譲渡(21年)	第1ステージ	中国 惠州工場(TBタイヤ-21年) Bridgestone(Huizhou) Synthetic Rubber Co., Ltd(合成ゴム事業)譲渡(内製事業-21年) Bridgestone Aircraft Tire Company(Asia), Ltd.(ACリトレッド工場)(22年) タイ ランシット工場 生産終了(23年 PS／TB含むバイアスタイヤ)
第2ステージ	TB:ラバーン工場閉鎖(25年1月発表) コーポレート機能、販売、オペレーション機能の人員削減(25年1月発表) 多角化:再構築(25年)	第2ステージ	中国TB事業から撤退(24年) - 瀋陽工場生産終了 ⇒ PSプレミアムタイヤビジネスへフォーカス強化 タイ REP卸し・小売／管理機能のリーニ化:再構築(25年)
AG	第2ステージ		
	ダメージコントロール、再構築検討(25年~26年) - デモイン工場における生産能力削減及び人員削減(25年1月発表)		

「質を伴った成長」へ

攻め

コア事業:プレミアムタイヤ事業 — 断トツ商品力強化

対象となるBridgestone E8 Commitment

Energy

Ecology

Efficiency

Extension

Ease

「攻め」の活動については、「断トツ商品」を中核に、タイヤを「創って売る」から「使う」段階で価値を増幅しています。そのために「断トツ商品」を継続的に強化しており、乗用車用、及びトラック・バス用タイヤにおいては、「新たなプレミアム」と位置付ける商品設計基盤技術「ENLITEN®」を搭載した新商品、鉱山車両用タイヤにおいては「Bridgestone MASTERCORE」の展開を拡大するとともに、次世代の「断トツ商品」の開発・企画も進めています。



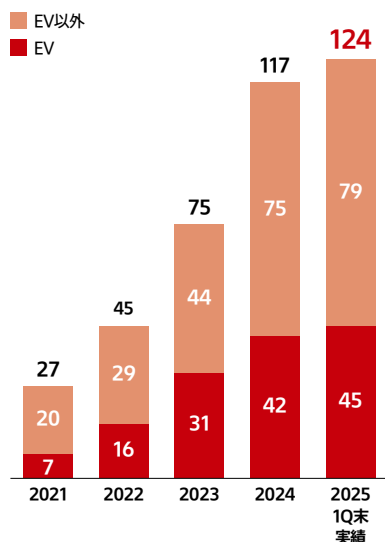
「新たなプレミアム」乗用車用 ENLITEN

商品設計基盤技術 ENLITEN は、タイヤの基盤性能を拡大し、従来のタイヤ性能を全て向上させた上で、サステナビリティへつながる環境性能、それぞれの市場やお客様のご要望によって顕在化している要求（ニーズ）、潜在的な要求（ウォンツ）を叶えるだけでなく、多様なクルマ・使用環境における特性に合わせて、市場・お客様が想像もしえない新たな価値を提供する性能（インスパイア）にエッジを効かせる「究極のカスタマイズ」を追求する技術です。特に乗用車用タイヤにおいては、ブリヂストン独自に構築する「新たなプレミアム」として、タイヤに求められる価値の変化・多様化へ対応しています。

ENLITEN の拡大（新車用／市販用タイヤ連動）

ENLITEN 拡大の起点となる新車装着については、プレミアム車種、プレステージ OE（カーメーカー）、プレミアム EV へのアプローチを強化しています。ENLITEN 技術による「究極のカスタマイズ」を軸にした価値創造を基盤に、日本、欧州、米国、新興 OE へのアプローチを強化した結果、2025 年 1Q 末時点で、ENLITEN の新車装着数はグローバル累計で 124 車種に拡大しました。この新車装着拡大を起点に、市販用タイヤへの回帰需要を着実に取り込んでいます。

● ENLITEN 新車装着車種数（グローバル）



● EV 新車装着車種※ ENLITEN 搭載

※ EV 新車装着車種: 25 年 1Q 末時点

新車メーカー	車種
日本 OE	Honda Prologue
	Lexus RZ
	Nissan ARIYA
	SUBARU SOLTERRA
	Toyota bZ4X
欧州 OE	Abarth 500 abarth 595 elettrica
	AUDI Q4 e-tron / e-tron GT / Q6 e-tron / A6 e-tron
	BMW iX / iX1 / i7 / i5 / iX2
	FIAT 500e
	Maserati Grecale Folgore
	Mercedes-Benz EQB / EQA / EQXX / CLA
	MINI Countryman
	Porsche Macan Electric
	SEAT Cupra Born
	SKODA ENYAQ
	VW ID.3 / ID.4 / ID.7

新車メーカー	車種
北米 OE	CHEVROLET Blazer EV / Silverado
	Ford Mustang Mach-E
	GMC Sierra
中国 OE	BYD Han L
	NIO eT7
	SAIC MG Mulan / MG ES5 / IM LS7
	XIAOMI SU7
インド OE	X PENG X9
	Tata Curvv.ev / Safari
台湾 OE	Foxtron Model C
ベトナム OE	VinFast VF6

ENLITEN搭載商品の拡大 — 市販用タイヤ

2023年以降、グローバルでENLITEN搭載の市販用新商品投入を進めてきました。最重要市場である北米では、2023年に販売を開始したTURANZA EV、Potenza Sport ASに続き、2025年にはツーリング領域オールシーズンタイヤの旗艦商品であるTURANZA PRESTIGE、ツーリング領域のベーシックタイヤTURANZA EVERDRIVEの新商品を投入しています。欧州では、欧州市場で求められるWET性能と摩耗などを高めたTURANZA 6を2023年から販売しており、成長市場と位置付けるインドでは、2024年にインド市場に合わせカスタマイズしたTURANZA 6iを投入しました。ホームマーケットの日本では、2024年に販売開始したREGNO GR-XIIIをベースに、ENLITEN技術でミニバン・コンパクトSUV専用カスタマイズしたREGNO GR-XIII TYPE RVを、2025年に上市しました。引き続きグローバルでENLITEN搭載市販用商品の拡大を進め、2025年中に累計約30商品、搭載率約35%まで引き上げることを計画しています。

● 主なENLITEN搭載プレミアム新商品 (2025年)

北米: ツーリング領域オールシーズンタイヤの
旗艦商品 (25年3月発売開始)

TURANZA™ PRESTIGE™



日本: ミニバン・コンパクトSUV専用
プレミアムタイヤ (25年2月発売開始)

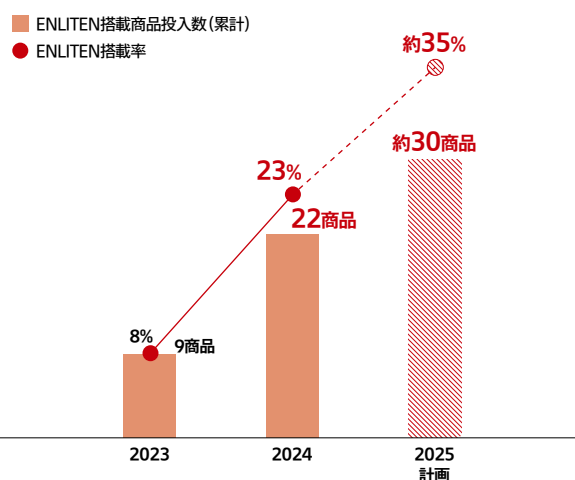
REGNO GR-XIII TYPE RV



さらに、サステナブルなグローバルモータースポーツとも連動し、次世代ENLITENの進化に向けた、研究開発、ビジネス企画も推進しています。

● ENLITEN搭載市販用PS/LTタイヤ拡大計画 (グローバル)

※ PS: 乗用車用タイヤ、LT: 小型トラック・バス用タイヤ



ビジネスとサステナビリティが連動した価値の創造

EVを含めた多様なクルマの特性に合わせた価値を提供するENLITENの拡大を通じて、Energy:カーボンニュートラルなモビリティ社会の実現を支えることにコミットします。

加えて、ENLITEN技術により、耐摩耗性能を向上し、ロングライフを提供する商品を拡大することで、グローバル経営リスクの一つであるTRWP(タイヤ・路面摩耗粉じん)の削減にも貢献しています(TRWPへの取り組み概要:P80参照)。

ENLITENとBCMAの融合による価値創造の加速

対象となるBridgestone E8 Commitment

Energy

Ecology

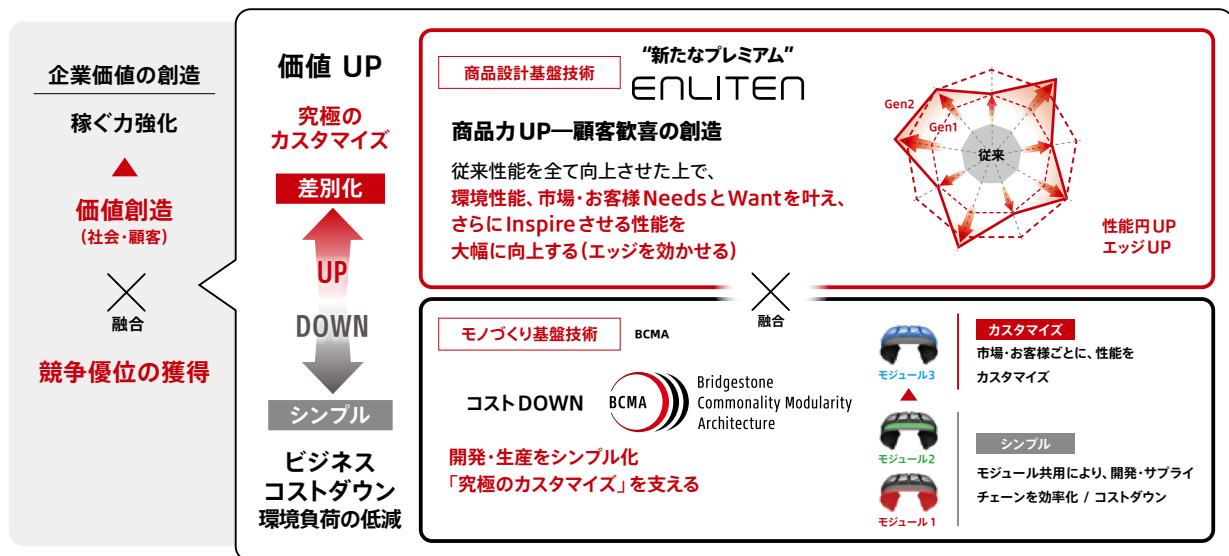
Efficiency

Extension

Economy

商品設計基盤技術ENLITENと連動して、「究極のカスタマイズ」を支えるのが、モノづくり基盤技術BCMA(Bridgestone Commonality Modularity Architecture)です。BCMAは、タイヤを構成するモジュール(部材)を3つに集約し、それを異なる商品間で共有することで、開発・生産を含むサプライチェーンをシンプル化し、開発・生産のリードタイムを短縮してお客様に迅速に価値を提供するとともに、環境負荷低減とビジネスコストダウンを目指すモノづくり基盤技術です。プレミアムタイヤ事業の中核として、ENLITENとBCMAの融合を進めることで、稼ぐ力を強化し、競争優位を獲得するとともに、社会価値・顧客価値、企業価値の創造を加速していきます。

● ENLITENとBCMAの融合による価値創造の加速—ブリヂストン「モノ」基盤技術



BCMAによる価値創造

BCMAは、現物現場でモノづくりの本質を追求することで、開発・生産コストの低減などの効果創出をスタートしています。2024年より、グローバルモデル工場4工場*からBCMA導入を推進しています。商品間でモジュールを共有し、商品ごとの材料・部材・設備の切替回数を削減することによる加工費低減など、BCMAの直接的な効果である1次効果の創出から、原材料調達の最適化や在庫削減など、バリューチェーン全体においても効果を波及させています。

また、リアル(匠の技)とデジタルの融合を軸に、「モノづくり」の本質を追求する「シン・彦根モデル」を日本の工場からグローバルへ展開を進めており、2025年はグローバルでこの活動を強化していきます。

さらに、中期事業計画(2027-2029)に向けて、グローバルでモジュールを共有する「グローバルモジュール化」へ挑戦していきます。この取り組みを通じて、原材料調達などバリューチェーン全体に効果を波及させ、業績貢献を加速的に進めていく計画です。

* 北米:カナダ・ジョリエット工場、欧州:スペイン・ブルゴス工場、日本:栃木工場、アジア:タイ・ノンケー工場

特集 // BCMA

「モノづくり」の本質を追求する「シン・彦根モデル」

「シン・彦根モデル」は、BCMAと連動して、リアル(匠の技)とデジタルの融合を軸に、「モノづくり」の本質を追求する活動です。この活動は、グローバルの「モノづくりの中核」である日本の彦根工場からスタートし、「シン・彦根モデル」として、グローバルへ展開を進めています。

「シン・彦根モデル」は、AIを実装したタイヤ成型システム「EXAMATION」の導入を起点に、生産に関連するデータを収集し、デジタルを駆使した分析を実施することで、商品・工

程ごとに生産における課題を抽出し、現物現場での改善活動を推進していく活動です。

リアル(匠の技)とデジタルを融合することで、モノづくりを進化させています。さらに、BCMAによる「バラつきのないシンプルなものづくり」の実現と掛け合わせた相乗効果により、安全、環境、品質、コストなどのモノづくりの指標が連鎖的に改善されるとともに、生産現場スタッフの人的創造性向上にもつなげています。

●「シン・彦根モデル」の全体像



スララク生産の実現 — モノづくり指標(Safety, Environment, Quality, Cost, Delivery)を連鎖的に改善

業務負荷低減

安全指標改善

真円度の向上

製品品質向上

生産効率化

タイヤ質量のスリム化

環境負荷低減

など

**生産コスト低減、生産現場スタッフの人的創造性向上へつながる活動を、
日本の工場からグローバルへ展開・波及**



中村 真人
中日本生産部門長 兼 彦根工場長

モノづくりのシンプル化を追求し、ムリ・ムダを徹底排除することにより、高効率化と高品質化を目指す「シン・彦根モデル」は、当社のモノづくり基盤技術である「BCMA」と高い親和性を持っています。商品開発側、生産側からのアプローチという違いはあるものの、「シンプル化」という共通言語を持つ両者の融合はモノづくりをさらに進化させ、連携・連動・連鎖による好循環を生み、それが品質経営をはじめとするSEQCD(安全・環境・品質・コスト・納期)の各指標の継続的な改善や現場の体質強化にもつながっています。こうしたつながりは、さらにはバリューチェーン全体の価値向上をもたらし、最終的には顧客価値の創出や社会価値の向上にもつながっていくと考えています。

ビジネスとサステナビリティが連動した価値の創造

BCMAの展開拡大を通じて、開発・生産を含むサプライチェーンをシンプル化することで、資源生産性の向上やCO₂排出量削減など、サステナビリティへも貢献しています。

攻め

地道なグローバルビジネスコストダウン活動強化 — ブリヂストンDNA

対象となるBridgestone E8 Commitment Energy Ecology Efficiency Economy

ENLITENを軸とした断トツ商品力強化による価値アップに加えて、バリューチェーン全体での地道なグローバルビジネスコストダウンを推進することで、稼ぐ力を強化しています。グローバルビジネスコストダウンは、BCMAに加えて、バリューチェーン川上のグローバル調達、川下のグローバルSCM(サプライチェーンマネジメント)物流改革、生産現場を中心としたグリーン&スマート化、地道な生産性向上を合わせた5つの活動を中心に、ブリヂストンDNAである「現物現場」で着実に進め

ています。

厳しい業績が続く中、この地道な活動が業績を下支えし、2024年には約750億円の効果を創出しました。2025年はさらに取り組みを加速し、約550億円の効果を見込みます(2025年5月15日発表時点)。2024-2025年合計で、24MBPの2026年ターゲットである約1,000億円(2023年対比)を1年前倒して達成するスピードで実行しています。

グローバル調達

グローバルSCM 物流改革 B-Direct

BCMA



Bridgestone
Commonality Modularity
Architecture



グリーン & スマート化

地道な生産性向上

グローバルビジネスコストダウン金額合計
(対前年)

2024年
(2023年差) **約 750 億円**

(製造原価: 約630億円
営業費 : 約120億円)

+

2025年
通期見込
(2024年差) **約 550 億円**

(製造原価: 約400億円
営業費 : 約150億円)



グローバル調達

原材料調達においては、サステナビリティを中核に、グローバル調達パートナーとの信頼関係を構築した上で、価値を共創(Win-Win)する取り組みを強化しています。このグローバル調達を通じて、米国関税影響に対しても、調達ソーシングの最適化を図っていきます。

加えて、間接購買についても、オフィス備品、工場治具などなどの地道な集中購買活動による、コスト低減を推進しています(サステナビリティを中核としたグローバル調達:P48-52参照)。

グローバルSCM物流改革 B-Direct

B-Directと名付けるグローバルSCM物流改革では、リーンな在庫コントロール(本数・金額ベース)を軸に、サプライチェーンの効率化、倉庫業務の地道な生産性向上を現物現場で着実に推進しています。

サプライチェーンの効率化については、生産フレキシビリティ向上と連動して在庫削減を推進するとともに、BCMAと連動しながら需要地の近くでタイヤを生産する近地生産を実現しています。さらに、DX(デジタルトランスフォーメーション)により、お客様と工場のデータ・モノを直接つなげることで、工場からお客様への直送率を向上させ、物流費を削減しています。また、EVトラックや倉庫への太陽光発電の設置などを含むグリーン物流や、倉庫内の自動化設備導入推進などのスマート物流を推進することで、生産性向上・コスト削減に加え、サステナビリティへも貢献していきます。2024年には、このグリーン&スマート技術を織り込んだ倉庫をスペイン・ブルゴスに設立しました。加えて、倉庫業務の地道な生産性向上により、倉庫費用を削減しています。

グリーン&スマート化

グリーン化では、エネルギー原単位(生産量あたりのエネルギー消費量)を継続的に削減していきます。スマート化においては、自動化を推進することで、生産性向上による加工費低減を実現していきます。

地道な生産性向上

生産現場を中心とした地道な生産性向上においては、「モノづくりの中核」である日本が中心となり、グローバルチームによる現物現場での活動を強化し、加工費など製造原価の低減を推進しています。

一例として2024年に、グローバルメンバーがスペイン・ブルゴス工場に集まり、現物現場でモールド切替時間の短縮による加工費低減へ向けた活動を実施しました。グローバル各工場のモールド切替時間の現状を確認し、日本・防府工場をスタンダードに、ギャップの見える化と比較を行った上で、防府工場での改善事例の共有などを通じて、ブルゴス工場で改善を実行しました。このブリヂストンらしい現物現場での改善活動を、2025年もグローバルで加速しています。

ビジネスとサステナビリティが連動した価値の創造

グローバルビジネスコストダウン活動では、サステナビリティを中核としたグローバル調達、リーンな在庫コントロール・サプライチェーンの効率化を推進するグローバルSCM物流改革、環境負荷低減に貢献するBCMA、生産現場を中心としたグリーン&スマート化と地道な生産性向上、それぞれの領域において、ビジネスコストダウンと連動したサステナビリティへの貢献を強化しています。

ブリヂストンは、バリューチェーン全体で持続可能な社会の実現とともに持続的な価値創造基盤の構築に取り組んでいます。グローバル化により、世界中から原材料等の調達が可能となり、また地理的距離によらず、企業間の協働も可能となりました。一方で、企業は、事業を展開するあらゆる地域で、人権問題や気候変動などのサステナビリティに関する問題に影響を与えるリスク、またこれらの問題から影響を受けるリスクの両方に直面しています。近年の不安定な地政学的状況やカーボンニュートラル化に向けたグローバル規模での流れを受けて、企業は自社の事業活動だけでなく、バリューチェーン全体において、人権の尊重や森林破壊の防止といったサステナビリティ関連リスクに対処するために、お取引先様とも協力することが急務となっています。

ブリヂストンの持続可能な調達の実現に向けた活動は、「グローバルサステナブル調達ポリシー（以下、調達ポリシー）」に基づいており、2050年を見据えた環境長期目標に掲げる「100%サステナブルマテリアル化」にも沿うものです。全ての主要なTier 1のお取引先様に対して2024年に改訂した調達ポリシーの受領を確認することを目標としており、2025年3月

末時点で74%※のレベル1及び2のお取引先様から調達ポリシーの受領書をいただいています。

ブリヂストンでは、社会やビジネスへの影響を踏まえ、特に、天然ゴムの持続可能な調達に注力しています。天然ゴムはタイヤの製造に使われる主要原材料であり、高品質のタイヤを生産するために不可欠な再生可能資源です。また、天然ゴムの栽培には、世界中で600万人以上が関わっているとも言われ、多くの人々の生計を支えています。しかし、天然ゴム需要が増加し続ける中、世界的な森林破壊の懸念が広がっており、天然ゴムのサステナビリティ向上に向けた取り組みは、私たちが事業を継続していくための重要な経営課題となっています。

私たちは、事業の持続可能性向上と、天然ゴムのトレーサビリティ向上の両面で、自社農園を保有していることが強みにつながっていると考えます。天然ゴムのサステナビリティに関する機会創出やリスクマネジメントの知見を得る実験室としての自社農園を保有することで、現物現場の深い理解に基づいて、信頼できるパートナーとのエンゲージメントを高め、緊密な協力関係を築いています。

※  詳細はWebサイトをご参照ください。
<https://www.bridgestone.co.jp/csr/social/procurement/>



大前 仁
グローバル調達統括部門長

ブリヂストンは、SEQCD (Safety, Environment, Quality, Cost, Delivery) をベースに ESG の価値創造にも目を向けた調達活動に取り組んでおり、E8コミットメントを軸として、お取引先様との対話を通じて新たな価値を共創することが重要であると考えています。例えば、サステナビリティへの社会的要求が高い原材料の一つである天然ゴムでは、事業環境の変化を踏まえ、お取引先様と連携してサプライチェーンのトレーサビリティ向上に先駆けて取り組んできました。今後も現物現場での地道かつ着実な活動を通して、公平で双方にメリットのあるパートナーシップを構築し、持続的な天然ゴムの利用を実現していきます。引き続き、質を伴った成長を通じて、持続可能な価値創造に努めてまいります。

上流トレーサビリティを強化し、透明性の高い 天然ゴムサプライチェーンを構築

トレーサビリティの確保は、ブリヂストンのサステナブル調達活動の中核を成しており、トレーサビリティを確保することで、私たちが事業で使用する原材料がどこからやってきたか、誰がどのようにして生産したかを可視化することができ、調達に関連するリスクを軽減することができます。

ブリヂストンでは、2027年までにトレーサビリティを地区（ディストリクト）レベル※で100%確保することを目指しています。目標の実現に向けて、従来のデータ収集方法の限界を認識した上で、デジタルツールの導入を拡大しています。デジタル化により、土地利用分析のための衛星画像、管轄監視のための地理マッピングの利用に加え、データをリアルタイムで管理するためのクラウドベースのデータ保管が可能となり、トレーサビリティのデータの精度と信頼性が向上しています。

さらなる取り組みとして、農園までのトレーサビリティの確保にも取り組んでいます。お取引先様の自己申告に基づく調査によると、2024年末時点で、規制遵守が求められる欧州市場向けだけでなく、グローバルな天然ゴムサプライチェーンのトレーサビリティを約42%（農園まで）確保しました。

	2021	2022	2023	2024	2027※1
州レベルトレーサビリティ※2	—	—	—	89%	
地区（ディストリクト）レベル トレーサビリティ※2	—	—	—	47%	100%
農園レベルトレーサビリティ※3	25%	33%	34%	42%	

※1 目標

※2 GPSNR定義の区分（2024年のデータはお取引先様から貰った情報をもとにブリヂストンで算出）

※3 農園のジオロケーションあるいは境界マッピング情報ベース

※ 区分についてはこちらを参照ください。

<https://sustainablenaturalrubber.org/gpsnr-geographical-classification-2/>

EUの森林破壊防止規則（EUDR）への準拠に向け、欧州向けまたは欧州域内で製造される製品について、期限内にEUDR要件に準拠してリスクを特定し、デューディリジェンスプロセスを確実に実施できるよう、継続的に取り組んでいます。

EUDR要件の準拠に向けたトレーサビリティ 向上の取り組み

EUDR要件の準拠に向けた取り組みの一環として、天然ゴムサプライチェーンの包括的な現地視察及びトレーサビリティ向上施策を実施しています。

ブリヂストンでは、既存のトレーサビリティ確保の枠組みを活用して、天然ゴムの小規模農家とのエンゲージメントを大幅に拡充しました。また、上流トレーサビリティの強化とEUDR要件の準拠に向けて、お取引先様とのパートナーシップを軸に協働して活動を推進しています。信頼できるパートナーとの強い協力関係のもと、上流の天然ゴム農園の詳細なリスク評価を実施し、農園の境界のマッピングを実施しています。このような取り組みに加え、厳密な検証活動や広範囲にわたる書類監査、そしてモニタリングを強化することで、お取引先様のデューディリジェンス活動が拡充され、透明性とコンプライアンス対応が大幅に強化されています。

具体的には、複数回の現地視察に加え、確実な書類検証や方針・手順の監査といった信頼度の高い検証手段を組み合わせています。こうした手法により、ブリヂストンのお取引先様のデューディリジェンス能力が向上し、事業活動と規制・法令への確実な対応の両立が可能となっています。



小規模農家向けのEUDRワークショップ

2024年に実施した農園レベルのリスク検証に続き、現在は特定されたリスクに対処するためのフォローアップ措置の策定に取り組んでいます。この一環として、2025年にはお取引先様と共にリスク軽減計画を策定する予定です。さらに、EUDR要件の準拠に関する研修の提供や、活動の進捗を追跡するモニタリングシステムの確立にも取り組みます。このように積極的に関与することで、農園レベルでの責任ある調達活動の推進や、EUDR基準に沿った継続的な改善を支援していきます。

2024年には、天然ゴム加工施設とその上流サプライチェーンの視察を実施し、ベストプラクティスと潜在的なコンプライアンスリスクの双方を特定しました。視察後には各お取引先様に

合わせたリスク軽減計画を策定し、特定された課題が効果的な形で解決されるよう、引き続き注視していきます。



現地視察

ブリヂストンにおける自社の天然ゴム生産

ブリヂストンは、リベリア、インドネシア、タイに4つの天然ゴム内製事業所を保有しています。これらの自社農園・加工施設は、天然ゴムビジネスの持続可能性確保に向けた技術やノウハウの検証を行う試験現場として重要な役割を担っています。

内製事業所で得られたノウハウや技術は、地域社会への技術支援の基盤として活用されるとともに、ブリヂストンとパートナー企業の天然ゴムビジネスにおいて持続的な価値創出に貢献しています。生産性の向上を目指した支援では、栽植法、未成木の管理、肥料の使用、病害対策、採取方法に加え、火災防止についても取り上げています。

社名	Bridgestone Natural Rubber Co., Ltd.	P.T. Bridgestone Kalimantan Plantation	P.T. Bridgestone Sumatra Rubber Estate	Firestone Liberia, LLC
国・市／省	タイ ハジャイ	インドネシア カリマンタン島	インドネシア 北スマトラ州	リベリア ハーベル
所在地(緯度, 経度)	6.72426, 100.44088	-3.62664, 114.86067	3.11580, 99.12169	6.26423, -10.33980
設立年	1999年	1999年(取得年)	2005年(取得年)	1926年
総面積	—	6,000 ha	17,900 ha	48,100 ha
栽培面積	—	4,300 ha	16,800 ha	24,000 ha
天然ゴムプランテーションの有無	なし(加工施設のみ)	あり	あり	あり

例えばインドネシアにあるブリヂストンの内製事業所では、周辺のゴム農家に対し、天然ゴムの質の向上に向けたラテックスの取り扱いに関する指導を行っています。これまで培ってきたノウハウを共有することで小規模農家とWin-Winの関係を築くことができ、長期的な視点では、高品質な天然ゴムの持続可能な調達にもつながります。

一方、自社農園は、ブリヂストンが毎年世界各地で調達する天然ゴムの約20%を供給する、重要な原材料サプライチェーンの一角でもあります。だからこそ、EUDR要件の準拠に向けた透明性の確保やその他の取り組みは、自社の天然ゴム施設にとっても重要なタスクです。

例えば、タイの加工施設は、積極的に農園のマッピング活動を実施しており、ワークショップの開催などを通じて上流サプライチェーンのパートナーとのエンゲージメントやコミュニケーションを強化しています。

また、インドネシアにある2つの内製事業所のうち、1つでは既に農園レベルで100%トレーサビリティを達成しており、もう1つの農園でも地区(ディストリクト)レベルでの100%トレーサビリティを確保しています。

ブリヂストンでは、地域社会への貢献の一環として、リベリア及びインドネシアで幼稚園・学校、医療施設を運営しているほか、インドネシアでは公衆衛生に関する教育や水害救助、防災訓練など、安全衛生や環境に関する支援を実施しています。



小規模農家向けEUDR要件の準拠対策支援

■ エクステンション・オフィサーによる小規模農家を 対象としたエンゲージメント活動(リベリア)

トレーサビリティを確保した透明性の高いバリューチェーンを確立するため、Firestone Liberia (FSLB)では農業エクステンション・チーム(農業技術指導チーム)を採用・配置し、小規模農家との直接交流を推進しています。本チームは農業のベストプラクティスに関する研修を実施するほか、人権、労働者の権利、環境基準に関する検証監査も行っています。個々の農家、生産及び調達に関するデータは、GPS情報も含めデジタルで収集されています。各チームは、配置前に生産性及びサステナビリティ基準に焦点を合わせた実践的ワークショップを基本とする広範な研修を受講しています。現在、24名のエクステンション・オフィサー(技術指導担当)が7つの地域に配置され、5,000名の小規模農家を担当しています。2025年末までに農家を「EUDR要件に沿ったサステナブルな農業を実施している農家」として認定することが目標です。



小規模農家向けのベストプラクティス研修

天然ゴムサプライチェーンにおけるデュー ディリジェンス活動を通じた持続可能性の向上

ブリヂストンでは、環境、社会リスクに取り組むため、サプライチェーン全体でESGデューディリジェンス活動を強化しています。リスクの特定及び検証は、Verisk MaplecroftとEcoVadisの第三者アセスメントのサポートの下進めており、2024年3月末時点で、全てのTier 1の天然ゴムのお取引先様がEcoVadisのESGリスクアセスメントを受審しています。

また、2022年から、現物現場の理念に沿って、強固なデューディリジェンス体制の確立に向けた基盤を整えました。第三者アセスメントのスコアを基に対象となるお取引先様に優先順位をつけ、WWFジャパンと連携して開発した自己評価アンケートを使ったESG現地監査を実施しました。

2024年は、EUDRの要件を満たすことに専念して活動を行いました。EUDRでは、天然ゴムを含む主な商品の生産及

び取引に関連する森林破壊のリスクを減少するために、デューディリジェンスを拡充することが求められています。

ESG視察は、ブリヂストンの長期サステナビリティ戦略にとって引き続き重要であることから、ESG現地視察の手順にEUDR特有のモジュールを組み込み、継続して手順を強化しています。新たに改訂された手順には、過去のアセスメントから学んだ教訓も取り入れられているため、より包括的な環境リスク、社会リスクの評価が可能となっています。取り組み方法を改善することで、規制要件への対応能力を強化するとともに、サプライチェーン全体の透明性を高め、持続可能性を向上しています。

今後の目標は、2025年中に全てのTier 1の天然ゴムのお取引先様を対象にESG現地視察を完了することです。これは、サプライチェーン全体のESGリスクを評価し、特定されたリスクに対応するとともに、責任ある調達活動と規制遵守を強化するという私たちブリヂストンのコミットメントでもあります。



Rhea Cinco
Head of Compliance and
Sustainability at Firestone
Liberia, LLC

リベリアでの人権リスクマネジメント強化活動

ブリヂストンの天然ゴム農園の中で最大規模を誇るFSLBは、天然ゴム農園としては世界で初めてISCC EUDRアドオン認証を取得し、様々な側面から他の農園の模範となるサステナビリティ活動を推進しています。この認証制度の下で規制の遵守を維持するため、FSLBはさらなる森林破壊フリー分析と、人権及び土地の使用権利に関する合法性チェックを受け、外部監査人による現地監査を通じた検証を受けなければなりません。また、FSLBは、内部通報の全体的な匿名性を確保するため、グリーンバンスメカニズム[※]の拡充も行いました。従業員は結束の強いコミュニティで暮らしているため、第三者が運営するフリーダイヤルを設置することで、誰でも自由に意見を言える環境を整えています。これにより、労働慣行や人権、環境への影響といったリスクを確実に軽減する取り組みが可能になっています。

※ FSLBでのメカニズム構築のため事業に関わるステークホルダーからの意見を集めるため、2022年にグリーンバンスメカニズム(苦情受付・解決の仕組み)を構築しました。この仕組みにより、お取引先様との関係を強化し、潜在的なリスクや機会を理解し、バリューチェーン全体の持続可能性を高めることが可能です。

🔗 詳細はWebサイトを参照ください。

https://www.bridgestone.com/responsibilities/social/procurement/grievance_mechanism/

Topics

グローバル経営リスク:6PPD / TRWP への対応

<6PPD>

6PPDはタイヤ産業で一般的に使用されている老化防止剤です。

安心・安全・快適な移動を提供することはタイヤ産業の使命であり、6PPDをタイヤゴムに使用することは現状の技術では不可欠です。

当社は、この6PPDに由来する物質である6PPD-Q (Quinone)※が銀鮭に対して影響を与えていると指摘する論文があることを認識しています。現在、米国でUSTMAが業界を代表して6PPDの代替品の評価を進めており、当社はUSTMAのメンバーとして積極的にUSTMAに協力しています。

また、ブリヂストンとしても、タイヤの安全性を担保できることを大前提とした代替品の開発を進めています。

※ 2020年の研究では、酸素やオゾンとの反応により形成される可能性のある6PPDに由来する物質、とされています。タイヤには6PPD-Qは使用されておりません。

<TRWP:Tire and Road Wear Particles(タイヤ・路面摩耗粉じん)>

TRWPは、タイヤが安心・安全な移動を支えるために必要な路面と摩擦することによって発生する粉じんで、タイヤの表面であるトレッドと道路舗装材の混合物です。

ブリヂストンのアプローチ

- 業界のリーダーとして、WBCSD(持続可能な開発のための世界経済人会議)傘下のタイヤ産業プロジェクト(TIP)を通じて、TRWPの物理的・化学的特性とその影響の研究に取り組んでいます。
- 業界団体での取り組みに積極的に参加し、グローバルで整合の取れた評価試験法の国際標準(ISO規格)策定に協力しています。全ての業界関係者にとって共通の基準を定める活動の推進を通じ、基準を満たさないタイヤが市場から減り、TRWPの発生量を減らすことにつながると考えています。
- ブリヂストン独自の取り組みとして、タイヤを「創って売る」「使う」バリューチェーン全体で、TRWPを削減するイノベーションを追求していきます。

技術開発:耐摩耗性能を向上させるための素材開発など、サステナブルな技術へのR&D投資を継続的に進めています。

商品:「究極のカスタマイズ」を追求する商品設計基盤技術ENLITENを軸に、タイヤに求められる様々な性能を向上させた上で、耐摩耗性能を向上することで、ロングライフを提供する商品を拡大しています。

ソリューション:モビリティテック事業の構築を通じ、リアル×デジタルでお客様ごとに最適な運転、運行ルート(最短ルート、渋滞回避、Stop & Go回数削減など)をご提案することで、「タイヤを安全に、長く、上手く、効率的に使って頂く」ソリューションを提供しています。

(TRWPへの業界リーダーとしての取り組みの詳細についてはP80を参照ください)

サステナブルなグローバルモータースポーツ活動の中核としたサステナブルなプレミアムブランドの構築

対象となるBridgestone E8 Commitment

Energy

Ecology

Emotion

ブリヂストン／ENLITEN技術ブランドを「サステナブルなプレミアム」ブランドへ

サステナブルなグローバルモータースポーツを軸に、「サステナブルなプレミアム」ブランド構築に向けた活動に着手しています。

2023年のブリヂストンモータースポーツ活動60周年に際し、モータースポーツに懸ける情熱を再確認し、新たにサステナビリティを中核に据え、サステナブルなグローバルモータースポーツ活動として進化させる決意を、新メッセージPassion to Turn the World「世界を変えていく情熱」として発表しました。レースを楽しむ、勝つことにこだわり、「極限へ挑戦」し、持続可能なモビリティ社会を支えていくという情熱を表現しています。

このサステナブルなグローバルモータースポーツ活動を軸に、「サステナブルなプレミアム」として、全ての一人ひとりにとっての「最高」を支え続け、モビリティの未来になくってはなら

ない存在となることを目指していきます。そして、ブリヂストンをプレミアムブランドから、ブリヂストン／ENLITEN技術ブランドで構築する「サステナブルなプレミアム」ブランドへ進化させ、モータースポーツを通じて、グローバルへ浸透させていきます。

加えて、サステナブルなグローバルモータースポーツ活動を「走る実験室」として、「極限への挑戦」で磨かれた技術を市販用タイヤに展開することで、次世代ENLITEN技術を進化させていきます。

ビジネスとサステナビリティが連動した価値の創造

原材料調達からリサイクルまで、バリューチェーン全体のサステナブル化を、モータースポーツタイヤからいち早く推進することで、ビジョン「サステナブルなソリューションカンパニー」に向けた会社全体の変革を加速させていきます。

レースに懸ける情熱。

それは、絶対に勝つという情熱。

諦めず、何度でもやり直すという情熱。

頂きを目指し、最高のパフォーマンスを発揮する情熱。

極限に挑戦し、どんな限界をも突破する情熱。

すべての瞬間で、断トツを追いつめる情熱。

世界中の人々にインスピレーションを生む情熱。

仲間とともに新たな道を切り拓いていく情熱。

かけがえのない地球を守り抜く情熱。

あなたの最高を支える存在であるために。

モビリティの未来になくってはならない存在であるために。

私たちブリヂストンは、

モータースポーツに限りなき情熱を注いでいく。

これまでも。そして、これからもずっと。

PASSION
TO TURN THE
WORLD

BRIDGESTONE

Motorsport Gallery新設

このようなブリヂストンのモータースポーツに掛ける情熱と、サステナブルなプレミアムブランドへの進化を体感できる施設として、Motorsport Galleryを、2024年に東京・小平のBridgestone Innovation Galleryにオープンしました。1階には、ブリヂストンブランドを象徴するFormula 1[®]マシン、ファイアストンブランドを象徴するINDYマシンが展示され、2階には、歴史を感じられるタイヤ現物や、マガジンの展示があります。

その先には、サステナブルなグローバルモータースポーツ活動を紹介しています。



Motorsport Gallery展示

(右)ブリヂストンのFIA Formula 1[®]世界選手権参戦に向けたタイヤ開発マシン

(左)ファイアストンのINDYCAR[®] SERIES復活に向けたタイヤ開発時のカラーリング再現マシン

新たなモータースポーツマネジメント体制を構築

サステナブルなグローバルモータースポーツ活動強化の一環として、2025年3月1日付にてGlobal Chief Technology Officer(執行役副社長)下に、グローバルモータースポーツ管掌を設置し、新たなモータースポーツマネジメント体制を構築しました。ブリヂストンにとって、グローバルモータースポーツ管掌を設置するのは初めてのことであり、次のステージへ向けてモータースポーツ活動を経営体制の面からも強化し、今後の拡大に応じて、進化させていきます。

2026-2027シーズンからは、ABB FIA Formula E世界選手権の単独タイヤサプライヤーにも選定されています。この新体制の下、2010年のFormula 1[®]撤退以来、15年ぶりにFIA世界選手権に復帰し、グローバルモータースポーツを支える活動を再スタートさせます。

モータースポーツの最高峰、Formula 1[®]の世界での経験を経て、それ以前にタイヤ開発の仕事をしていた時にもまして、車の性能にかかわるタイヤの重要性を一層感じています。再びブリヂストンのメンバーとして、我々が関わる全てのモータースポーツの場において極限に挑戦する姿勢を貫き、ステークホルダーの皆様楽しんでいただけるレースと一緒に作り上げていきたいと、強く思いを新たにしています。また、モータースポーツのDNAであるアジャイルな活動を切り口に、サステナブルなタイヤ開発やオペレーションを加速していくことは、文字通り「走る実験室」の具現化です。日々生み出される新技術を実現していく上でどんな新しい世界を開けるのか、自分やチーム全員、チャレンジにワクワクしています。



今井 弘

常務役員

グローバルモータースポーツ管掌

略歴

1990年:株式会社ブリヂストン 入社

日本・欧州にて自動車メーカー向けタイヤ開発に従事した後、Formula 1[®]向けタイヤをはじめとしたモータースポーツタイヤ開発、及び、レースオペレーションに携わる。

2009年:McLaren Racing Ltd.※ 入社

タイヤのみならずサーキットにおけるチーフエンジニアなどを務め、同社のFormula 1[®]レースエンジニアリングに幅広く貢献。

※ McLaren Racing Ltd.:1963年に設立されたレーシングチーム。1966年よりFormula 1[®]に参戦し、これまでに世界3大レースであるFormula 1[®] モナコGP、ル・マン24時間レース、INDY500の全てで優勝している。Formula 1[®] 2024年シーズンでは、1998年以来のコンストラクターズチャンピオンを獲得。

2025年1月:Formula 1[®]2024年シーズン終了後、McLaren Racing Ltd. 退社

2025年2月末:株式会社ブリヂストン入社

2025年3月1日:

常務役員 グローバルモータースポーツ管掌に任命

成長市場 「質を伴った成長へ」

対象となる Bridgestone E8 Commitment Ecology Efficiency Economy Extension Emotion

今後に向けては、「質を伴った成長」をけん引する市場として、米国、インド消費財、及び、鉱山・航空機系を中心とした生産財系 BtoBソリューションを成長市場と位置付け、強化しています。

米国事業強化:消費財ビジネス再構築

■「変化をチャンスへ」:マルチブランド戦略の強化

米国事業強化においては、市場構造変化を想定し、消費財ビジネス再構築を進めています。ブリヂストン・ファイアストンブランドのそれぞれの特徴を活かしたマルチブランド戦略強化を図ります。当社は、1988年のファイアストン買収以来、米国の社会・経済に貢献し、人とモノの移動を支え続けてきました。今後も、最重要市場として、成長に舵を切っています。

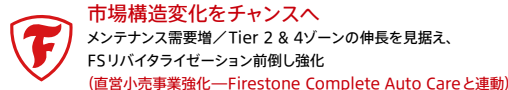
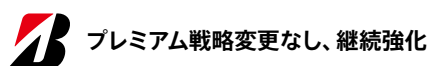
ブリヂストンブランドは、プレミアム戦略を継続強化しています。ブランドについては、サステナブルなグローバルモータースポーツと連動して、「サステナブルなプレミアム」プラン

ドを構築していきます。中核となる断トツ商品については、ENLITEN 技術搭載の新商品拡大を進めています。チャネルについても、従来の OE (新車用) から REP (市販用) への回帰需要獲得に加えて、大手プレミアム小売チェーン／卸クラブとの連携を強化するなど、戦略的カスタマーチャネル拡充を進めています。

同時に、市場構造変化をチャンスに変えるため、ファイアストンブランドの活用を強化しています。米国内の車両の車齢アップによるメンテナンス需要の増加や、Tier 2 及び Tier 4 ゾーンのタイヤ需要の伸びを見据え、ファイアストンブランドのリバイタライゼーションを前倒しで進めています。

NTT INDYCAR® SERIES などとの連携を再強化し、ブラ

「変化をチャンスへ」— 米国事業強化 米国消費財ビジネス再構築:「マルチブランド戦略」



ブランド サステナブルなグローバルモータースポーツと連動した
BS ブランド × 技術ブランド ENLITEN
「サステナブルなプレミアム」

NTT INDYCAR® SERIES と連携し再強化
1990年代 FS ブランドキャンペーンロゴ
“America's Tire Since 1900”



ENLITEN 技術搭載の新商品拡充

中核
断トツ
商品

TURANZA
PRESTIGE

TURANZA
EVERDRIVE

ツーリング領域オールシーズンタイヤの
旗艦商品 (25年3月 発売開始)

ツーリング領域のベーシックタイヤ
(25年6月 発売開始)

ユニークポジション確立に向けた商品力強化

- ・新商品 **AFFINITY AS**
ツーリング領域オールシーズンタイヤ (25年4月発売開始)
- ・サイズ拡大: Firestone All Season
- ・26年より ENLITEN 技術搭載新商品拡充

断トツ商品を中核に、26年に向けても ENLITEN 技術搭載新商品の投入を加速 (BS & FS) —
開発リソースシフト (日本⇒米国) 実行

戦略的カスタマーチャネル拡充

チャネル

- OE から REP への回帰需要獲得
- 大手プレミアム小売チェーン／卸クラブとの連携強化

新ファミリーチャネル構築

- 直営小売拠点拡大・サービス拡充 × FSディーラー
—販売投資実行— リバイタライゼーション
- 直営小売店網 約2,200店 拡大・サービス拡充
—Firestone Complete Auto Care—
- Firestone クレジットカード連携強化



ンド力を向上させるとともに、ユニークポジション確立に向けた商品力を強化していきます。2026年からは、ファイアストンブランドにもENLITEN技術搭載商品を拡大するなど、新商品を積極的に投入していきます。開発リソースを日本から米国にシフトすることで、断トツ商品開発を加速していきます。加えて、直営小売店網であるFirestone Complete Auto Careを中心に、ファイアストンディーラーのリバイタライゼーション、ファイアストン クレジットカードビジネスとの連動を強化することで、新ファミリーチャンネル構築を進めています。

このように、ブランド、商品、チャンネルを包括的に強化していくことで、消費財ビジネス再構築を加速させていきます。

■ 直営小売事業強化

ファイアストンブランドのリバイタライゼーションと連動して、2026年に創立100周年を迎える直営小売店網Firestone

Complete Auto Careの2,200店舗を拡充し、直営小売事業を強化しています。オペレーショナルエクセレンスの向上をベースに、店舗ネットワークの拡大やサービス拡充のための販売投資を実行していきます。現場の強いリアルとAIを活用したデジタルを融合することで、プレミアムな顧客経験価値と販売現場の生産性・創造性を向上させる新商態へ挑戦していきます。

■ 米国生産強化

消費財ビジネス再構築を通じた販売強化と連動して、米国生産を強化していきます。PSタイヤを生産する米国エイケン工場にて、工程間バランスを適正化する小規模投資を実行するとともに、ウィルソン工場も含めて生産性向上を強化することで、既存設備の最大活用を図り、地産地消率を維持・向上していきます（米国生産強化の詳細：P28参照）。



Marko Ibrahim
President of Bridgestone
Retail Operations

米国直営小売事業では、ファイアストンブランドの伝統を大事にしながら、2,200店舗のネットワーク全体で、顧客経験価値の向上に注力しています。従業員2万人を対象にした研修プログラムへの戦略投資を実行することで、リアルとデジタル双方における顧客経験価値の向上に取り組んでいます。さらに、新商態展開を通じて、よりシームレスなサービスを提供するとともに、顧客ファーストを継続強化していきます。

インド消費財ビジネス

■「質を伴った成長」へ

ブリヂストンは、1996年のインドでの生産・販売事業会社設立以降、マーケットリーダーポジションを構築してきました。安定した経済成長や、インド国内の自動車保有台数、生産台数の増加を背景に、継続的な成長が見込まれるインド消費財事業を「成長市場」と位置付けており、プレミアム・マス戦略を実行し、「質を伴った成長」を目指しています。

■ 戦略投資

この「質を伴った成長」に向けた戦略投資として、プネ工場及びインドール工場での乗用車用プレミアムタイヤの生産能力増強を、2024年に発表しました。投資金額は約119億円(発表時為替の1ドル=140円で換算)で、プネ工場では生産能力増強完了後に年産約110万本増産、インドール工場は、プレミアムタイヤ生産のための質向上投資を実施します。

また、現場密着で開発から生産までのモノづくりを強化するため、プネ工場内にサテライト・テクノロジーセンター機能を設置します。インド市場に最適なカスタマイズを追求し、ENLITEN 技術搭載商品の開発・生産をより強化していきます。

さらに、お客様との大切なタッチポイントである販売チャネル網を強化することで、「断トツ商品」の価値を、お客様が

「使う」段階で増幅していきます。B-Selectを中心としたファミリーチャネル拡充を軸に、戦略パートナーとの提携を進めていきます。

■ インド断トツ商品:ENLITEN 搭載「TURANZA 6i」

他地域で先行発売していた「TURANZA6」をENLITEN 技術によりインド市場向けにカスタマイズした「TURANZA 6i」を、2024年に販売開始しました。ENLITEN 技術を搭載することで、インド国内の様々な道路事情に対応する耐久性と、静粛性などの快適な乗り心地、耐摩耗性を両立するとともに、優れた低燃費性能も搭載することで、インド市場に新しい価値を提供しています。



「成長市場」のインドにおいて、社会価値・顧客価値の創造を加速させることで、地域社会・お客様・産業の発展にも貢献していきます。



吉真 弘

BSAPIC Group President 兼
Bridgestone India Private Ltd.
Managing Director

ブリヂストンは、1996年にインドで生産・販売事業会社を設立して以来、約30年にわたり現物現場でお客様に寄り添い続けています。強固な地産地消体制、物流・チャネル網などをいち早く構築し、インドのモータリゼーションに貢献してきたことで、多くの方々から信頼され、高い品質を誇るブランドとして確固たる地位を築いています。将来に向けても、「今日よりも明日は良くなる」と信じている明るくエネルギーで目標に向かってひたむきな Bridgestone India 従業員と一緒に、可能性にあふれるマーケットにおいてモビリティの進化を足元から支えることで、グローバルでの「質を伴った成長」をリードしていきます。

生産財系 BtoB ソリューション

対象となる Bridgestone E8 Commitment

Energy

Ecology

Efficiency

Extension

Economy

お客様が「使う」段階で価値を増幅

ソリューション事業においては、お客様がタイヤを「使う」段階で価値を増幅し、E8コミットメントとも連動した新たな価値を提供することに挑戦しています。特に、強いリアルとデジタルの融合により、お客様のオペレーションの効率化と経済価値の最大化といった顧客価値とともに、CO₂排出量削減や資源生産性の向上など、社会価値の創造を目指す生産財系 BtoB ソリューションにフォーカスしています。

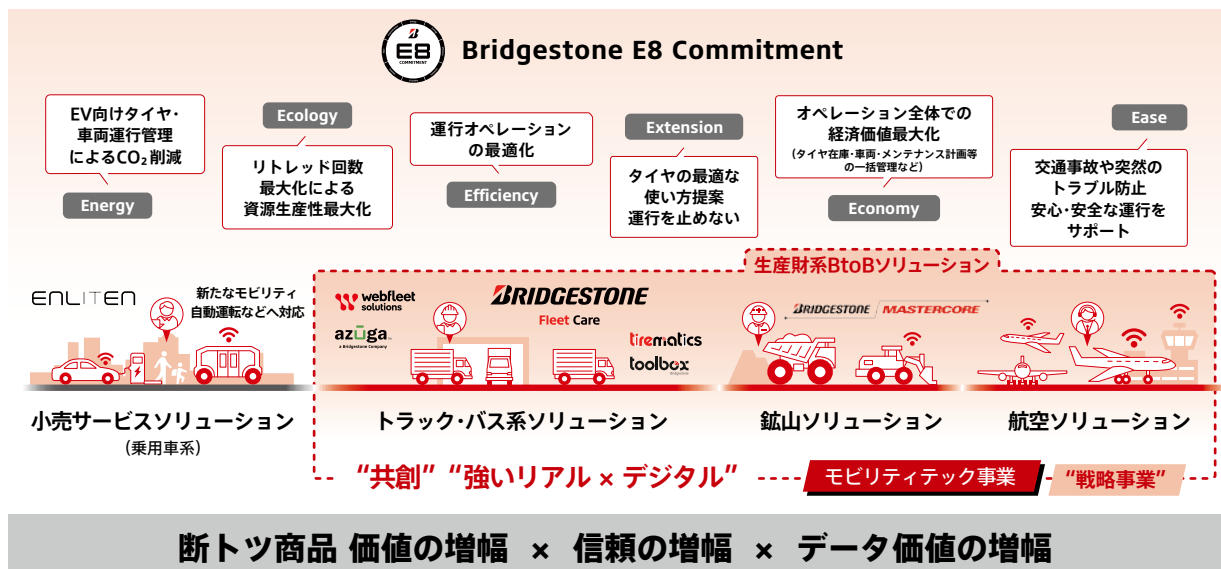
断トツ商品の価値を増幅し、それを基盤として、社会・パートナー・お客様との信頼を増幅し、その信頼関係の構築により、お客様・パートナーからタイヤ・車両データなどのデータを共有いただき、データの価値を増幅することで、生産財系 BtoB ソリューションを拡充しています。これらを通じて、ブリヂストン流のモビリティエコシステム構築を目指します。

ビジネスとサステナビリティが連動した価値の創造

生産財系 BtoB ソリューションは、お客様に「タイヤを安全に、長く、上手く、効率的に使って頂く」ソリューションを提供することで、社会価値・顧客価値を創造しています。お客様の車両運行・オペレーションの最適化などを支えながら、CO₂排出量削減に貢献します。航空／トラック・バス系ソリューションにおいては、資源生産性の向上に大きく貢献するリトレッドを継続強化し、お客様のオペレーションコストの削減に貢献しています。

また、トラック・バス系のモビリティソリューションを中心に、最適な運転、運行ルート（最短ルート、渋滞回避、Stop & Go 回数削減など）の提案を通じて、安全安心を守るとともに、グローバル経営リスクの一つである「TRWP (Tire and Road Wear Particles)」の発生量削減も図ります。

●ブリヂストン流のモビリティエコシステム



鉱山ソリューション

鉱山ソリューションでは、強いリアルを通じて築き上げてきたお客様との信頼関係を基盤に、次世代タイヤモニタリングシステム「Bridgestone iTrack」から取得できるタイヤデータやお客様から共有頂く車両・車両運行データを分析しています。これをベースに、AIを活用した独自のアルゴリズムを構築し、お客様・鉱山ごとに異なる困りごとに寄り添った鉱山オペレーションの最適化に貢献するソリューション「Smart On-Site」を展開しています（ブリヂストン流DXの全体像：P36参照）。

■強いリアル — Bridgestone MASTERCORE

Bridgestone MASTERCOREは、内製スチールコードをはじめとしたブリヂストン独自の新技术を結集し、断トツの高耐久性能を実現させた断トツ商品です。他の性能を犠牲にすることなく耐久性などの必要な性能を向上させることで、お客様のニーズや車両の運行状況に合わせてカスタマイズし、最適な性能を提供することを可能にしています。お客様に価値を認めて頂くことをベースに、2024年末時点でBridgestone MASTERCOREを約120鉱山へ展開を拡大しています。2024年には、Bridgestone MASTERCOREなどを生産する戦略生産拠点である北九州工場への戦略投資を発表しました。日本のモノづくり力をさらに向上させ、高品質で安定した生産体制を確保するとともに、次世代の「断トツ商品」へも対応できるようになります（生産量は同水準）。加えて、現物現場でお客様の困りごとに寄り添う技術サービスや、2021年に買収したOtraco社の拠点を含む約125拠点の鉱山ソリューションネットワークなども継続強化していきます。

■鉱山ソリューションの拡充

2023年7月から、BHP社がチリに保有するPampa Norte Spence 鉱山にて、お客様の車両データや独自のアルゴリズムを活用したタイヤ耐久予測による新サービスの提供を開始しています。また、2025年からは、コマツ社との共創も開始しました。

ーコマツ社との共創による新たなソリューションー

鉱山オペレーションでは、外的要因によるタイヤの故障や車両の停止が発生し、ダウンタイムが課題となっています。また、タイヤを使い切る前に交換が必要になることも課題です。これらに対して、コマツの鉱山向け大型機械の管理システム

「Komtrax Plus」から得られる車両データと、ブリヂストンの鉱山車両向け次世代タイヤモニタリングシステム「Bridgestone iTrack」から得られるタイヤデータをリアルタイムで共有し、解析、タイヤの適切な使い方を提案することで、鉱山向けダンプトラックの燃費改善やタイヤをより安全に、長く、上手く、効率的に使い切って頂くことを目指しています。精緻な解析を可能とすることにより、故障原因を早期に特定でき、原因に合わせた適切な応急処置や再発防止策を実施することで、ダウンタイムの短縮を図ります。さらに、燃費に影響を与える要因として、①鉱山現場の特徴（傾斜度、路面状況）、②車両の使用状況（走行ルート、走行速度、積載量）、③タイヤの仕様（パターンや材料等）や使用方法があり、これらのデータを分析し、燃料費の削減にも貢献していきます。この共創により、当社の鉱山ソリューション「Smart On-site」の更なる進化を図り、コマツ社・当社の共通のお客様である鉱山事業者のオペレーションの安全性や生産性向上に貢献していきます。



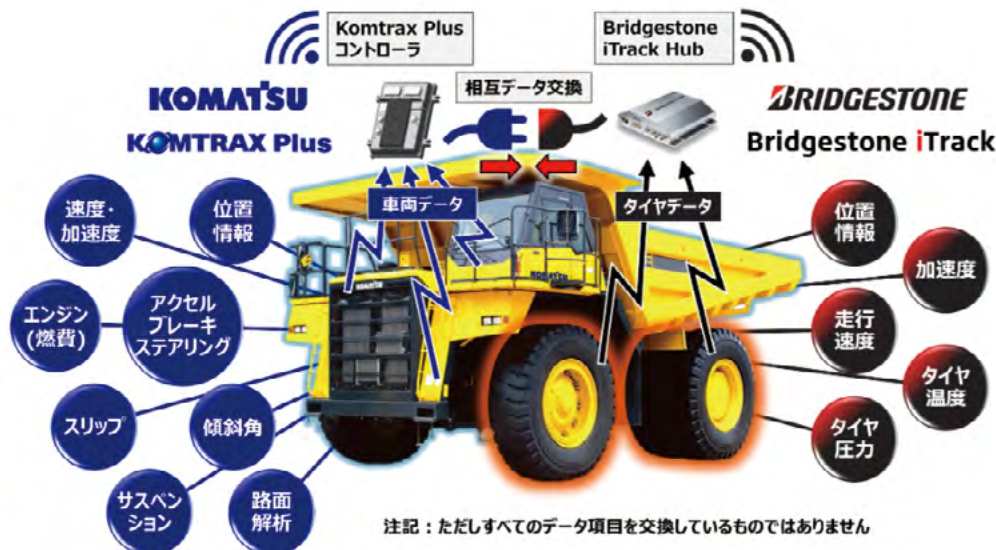
私たちは様々な鉱山向けに、タイヤの耐久予測ソリューションを開発しています。タイヤが使用される状況は鉱山ごとに異なるため、各鉱山のオペレーションに適したアルゴリズムが必要です。そのため、様々な部門やお客様と緊密なコミュニケーションを図り、時には自分たちも実際に鉱山を訪れて現場のオペレーションの「リアル」を把握することに努めました。こうした活動を通じて、収集したデジタルデータを



白木原 雅史
デジタルソリューションAI・IoT
企画開発部門 デジタル主幹

最大限に活用した効果的なアルゴリズムを開発することができ、タイヤの長寿命化や車両ダウンタイムの削減を通じて「データ価値の増幅」に貢献できました。今後も誠実協調の姿勢で、耐久予測ソリューションのさらなる拡大に尽力していきます。

- コマツの鉱山向け大型機械の管理システム「Komtrax Plus」と
ブリヂストンの鉱山車両向け次世代タイヤモニタリングシステム「Bridgestone iTrack」のデータ相互交換のイメージ



航空ソリューション

航空機用タイヤは、安心・安全が大前提の中、重荷重・高速度・高温～低温の幅広い温度帯など、過酷な状況下での航空機の離発着を足元で支えています。

生産財系 BtoB ソリューションの戦略的起点となる航空ソリューションでは、断トツ商品力を軸に、複数回リトレッドやタイヤ摩耗・耐久予測を組み合わせることで、タイヤ一本あたりの価値を最大化し、航空会社オペレーションの生産性・経済価値の最大化やサステナビリティへも貢献しています。その拡充にあたっては、お客様である航空会社から運航データを共有頂くことで、ソリューションを進化させ、新たな価値創造を通じて航空産業の発展に貢献していきます。

■ 日本航空株式会社 (JAL) との共創：

航空機用タイヤは、数百回の離着陸の後に摩耗に伴いタイヤ交換が必要となりますが、航空機や空港などそれぞれの使用環境によってタイヤの摩耗進展速度が異なります。そのため、計画的に交換時期を予測しにくく、突発的なタイヤ交換の発生や交換時期が集中してしまうなど「非計画」業務となっていました。

そこで、2020年5月より株式会社ジェイエア (JALグループの航空会社) が運航するリージョナル機を対象に、JAL の航空機に関するフライトデータや知見と、ブリヂストンのタイヤに

関する摩耗予測技術や知見を組み合わせ、交換時期を精度高く予測することで、計画的なタイヤ交換オペレーションを開始しました。約4年にわたる運用の中で、タイヤ交換業務の効率化やタイヤ・ホイールの在庫の平準化・削減を実現し、タイヤの生産・使用過程での CO₂ 排出量の削減にも寄与することができました。加えて、タイヤ交換の「計画」業務化により、整備士の予定外残業を削減する働き方改革や、予防整備の拡充によって整備業務の品質向上にも貢献しています。

2024年には、この共創で培った両社の知見をもとに、タイヤ摩耗予測技術とその活用法をさらに進化させ、精度の高い計画的なタイヤ交換オペレーションの対象をリージョナル機から、エアバス A350-900 型機をはじめとする大型機へと拡大しました。



トラック・バス系ソリューション

トラック・バス系ソリューションは、欧米を中心に、断トツ商品・メンテナンスサービス・リトレッド・モビリティソリューションを一括で提供する「Bridgestone Fleet Care」プログラムを展開しています。顧客密着で、お客様それぞれの困りごとを理解し、適切なプレミアムタイヤとリトレッド、モビリティソリューションをパッケージとして提供することで、お客様のオペレーションコストの最適化や、タイヤをより安全に、長く、上手く、効率的にお使い頂くことに貢献しています。

このプログラムは、2022年から欧州にて開始し、そのノウハウを活かして、2024年に北米でもサービスを開始しました。2024年末時点で、契約台数は欧州約31千台、北米では約18千台と、合計で約50千台へと拡大しています。北米においては、トラック・バス用タイヤビジネスの強い基盤として、断トツ商品、リトレッド、フリート向けサービスネットワーク、フリート顧客ベースを既に有しており、これに2021年に買収したAzugaと戦略パートナーが提供するモビリティソリューションを組み合わせ、展開を拡充しています。モビリティソリューションにおいては、引き続き、2019年に買収した欧州Webfleet Solutionsのノウハウも活用していきます。モビリティソリューションは、2社の買収以降、着実に強化し、欧州Webfleet Solutions 約860千台、北米Azuga 約400

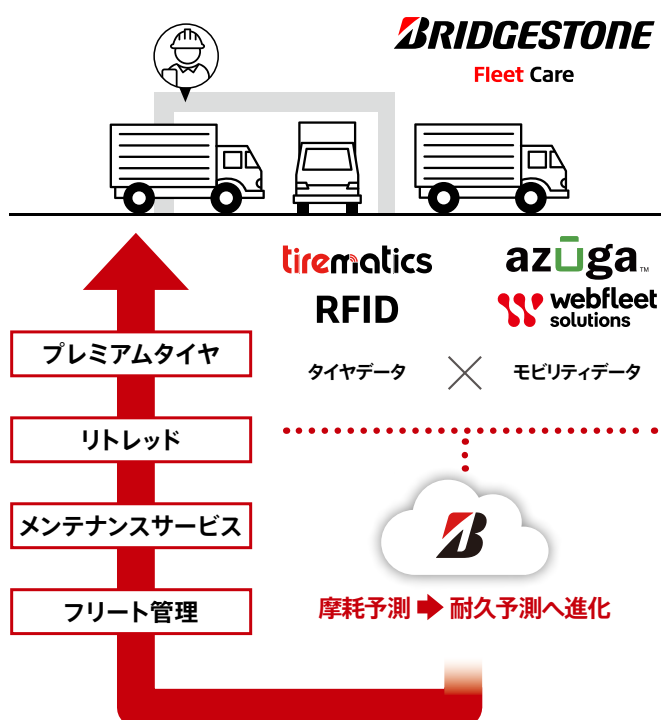
千台と、欧米合計で約1.3百万台の契約台数へ拡大しました。(2024年末時点)

さらに、需要伸長領域である北米のラストマイル物流向けソリューションについても強化しています。小型トラックで市街地を移動するラストマイル物流は、Stop & Goを繰り返す運行で、タイヤへの負担も大きく早期摩耗が多いことが課題です。予期せぬタイヤ交換やメンテナンスが必要になることも多く、車両稼働率の低下やメンテナンスコストが平準化できない点などがお客様の困りごとです。これを現物現場でお客様に寄り添いながら、断トツ商品を軸に、リトレッドや質の高いタイヤ点検・メンテナンスサービス、Azuga のプラットフォームを活用した効率的な運行管理などをパッケージとして提供することで、ラストマイル特有の困りごとを解決していくことを目指しています。

一例として、米国では、商用車(小型トラック含む)フリートへの「プレミアムタイヤ+ メンテナンス」を組み合わせたソリューションサービスを2024年から開始しました。今後モビリティソリューションを含む「Bridgestone Fleet Care」プログラムへ進化・統合を図ることで、フリート向けソリューションを拡大していきます。

また、2024年にはGeotabとの間で、欧米における車両運行関連データの交換に関するパートナーシップ強化を発表しました。今後も外部パートナーとの共創を強化しながら、トラック・バス系ソリューションを拡充していきます。

●「Bridgestone Fleet Care」プログラム:全体像



※ Tirematics: タイヤの空気圧と温度を遠隔モニタリングするデジタルソリューションツール

※ RFID (Radio Frequency Identification): 電磁界や電波などの無線通信を用いて、ICタグなどの情報を非接触で読み書きする自動認識技術

共創・イノベーション リサイクル事業 — タイヤを原材料に「戻す」

対象となるBridgestone E8 Commitment

Energy

Ecology

「創って売る」「使う」に加えて、パートナーとの共創をベースとして、タイヤを原材料に「戻す」取り組みも進めています。

■ 使用済タイヤの精密熱分解技術の確立に向けた 技術開発・実証実験 (ENEOSとの共創)

NEDO「グリーンイノベーション基金事業」支援プロジェクト

2022年からENEOS株式会社と使用済タイヤのケミカルリサイクルの取り組みを開始し、2023年には東京・小平市のBridgestone Innovation Park (BIP) に実証機を導入し、使用済タイヤの精密熱分解試験による分解油や再生カーボンブラックを回収する技術開発を進めてきました。回収した分解油をリサイクルオイル化し、合成ゴムの素原料であるブタジエンなどの化学品を製造することで、再生カーボンブラックと共にタイヤ原材料として再利用される資源の循環を目指しています。

次のステップとして、2025年1月に、関工場敷地内に、使用済タイヤの精密熱分解パイロット実証プラントの建設を決定し、2027年中の稼働開始を予定しています。このパイロット実証プラントにおいて、精密熱分解プロセスの確立及び最適化に関する技術実証を行います。また、本パイロット実証プラントは、BIPに導入した実証機で得た精密熱分解の基盤技術を実装しており、安定した連続運転に必要なプロセス設計や品質管理などの知見を獲得して、分解油や再生カーボンブラックなどの量産を想定したスケールアップ技術の確立を目指します。さらに、技術開発の取り組みと併せて、プラント操業のノウハウ構築やケミカルリサイクル実現を支える人財の育成も推進します。

■ 使用済タイヤ等からカーボンブラックを生成する 共同プロジェクト開始 (東海カーボン／九州大学／岡山大学との共創)

NEDO「グリーンイノベーション基金事業」支援プロジェクト

東海カーボン株式会社がカーボンブラック製造を通じて培ってきた技術・ノウハウと、ブリヂストン、九州大学、岡山大学が持つ各々の知見や技術を融合させることで、使用済タイヤ等のゴムを含む高分子製品から取り出された再生カーボンブラックを二次処理し、石油・石炭由来の新品カーボンブラック並のゴム補強性を持つカーボンブラックを生成するための技術開発プロジェクトを、2025年1月に開始しました。

以上のENEOS、及び東海カーボン／九州大学／岡山大学との共創活動の成果は、NEDO (国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構) の委託業務、助成事業の結果得られたものです。

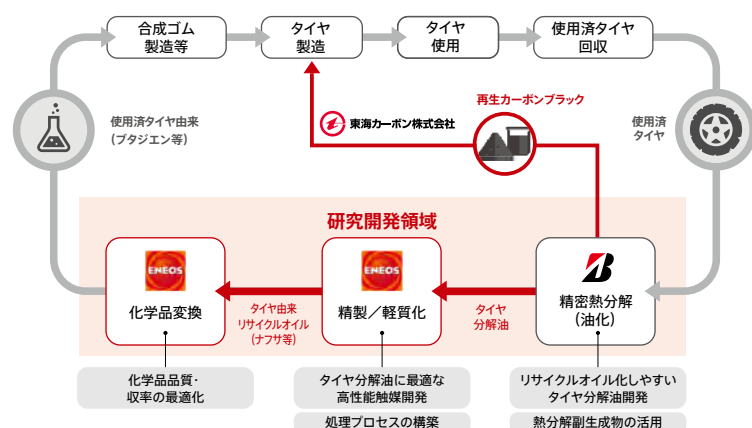
■ 植物資源由来の合成ゴムを使用したタイヤの 商業化へ向けた取り組み (ENEOS マテリアル／ 日揮ホールディングスとの共創)

2022年より、ブリヂストン、株式会社ENEOS マテリアル、日揮ホールディングス株式会社の3社で、植物資源由来のバイオブタジエン及びタイヤ用合成ゴム製造の基礎的な技術検討や市場調査を進めてきました。2025年に植物資源由来の合成ゴムを使用したタイヤの商業化に向けた3社連携を加速させることを発表しました。

このようにブリヂストンは、様々なパートナーとの共創活動を通じて、使用済タイヤを「資源」としてゴムや原材料に「戻す」リサイクル事業の事業化に向けた「EVERTIRE

INITIATIVE (タイヤの価値が「循環」し続ける社会を創る、という想いを込めた共創を呼びかける活動)」に取り組んでおり、タイヤ水平リサイクルの早期社会実装を目指しています。ブリヂストンは、この共創活動を通じて、E8コミットメントで掲げる「Ecology: 持続可能なタイヤとソリューションの普及を通じ、より良い地球環境を将来世代に引き継ぐこと」、「Energy: カーボンニュートラルなモビリティ社会の実現を支えること」にコミットしていきます。

● 精密熱分解によるケミカルリサイクルの概念図



特集 // Bridgestone E8 Commitmentを軸とした価値創造

ブリヂストンは、使命・ブリヂストンDNA・ビジョンを反映するBridgestone E8 Commitment (E8コミットメント)を軸とした価値創造を強化しています。実際のビジネスや現場の活動の中で、ブリヂストンらしい価値創造を加速させ、特に優れた活動をグローバルで共有する仕組みとして、グローバルTQM活動やブリヂストングループアワードをグローバルの財産として大切にしています。

● 企業コミットメント「Bridgestone E8 Commitment」



Bridgestone E8 Commitment to Our Future

未来の子供たちからの預かり物であるこの地球のために。
ブリヂストンはコミットする。

Energy	カーボンニュートラルなモビリティ社会の実現を支えることにコミットする。
Ecology	持続可能なタイヤとソリューションの普及を通じ、より良い地球環境を将来世代に引き継ぐことにコミットする。
Efficiency	モビリティを支え、オペレーションの生産性を最大化することにコミットする。
Extension	人とモノの移動を止めず、さらにその革新を支えていくことにコミットする。
Economy	モビリティとオペレーションの経済価値を最大化することにコミットする。
Emotion	心動かすモビリティ体験を支えることにコミットする。
Ease	より安心で心地よいモビリティライフを支えることにコミットする。
Empowerment	すべての人が自分らしい毎日を歩める社会づくりにコミットする。

グローバルTQM活動

ブリヂストンのTQM活動は、1960年代の「デミング・プラン」推進以降、「ブリヂストン独自のデミング・プラン」、ブリヂストンDNAを強く反映し、継続的改善とイノベーションによる業務品質の向上を目指す全員参加のTQM活動をグローバルで継続強化しています。

世界各国におけるTQM活動の優れた事例を共有することを目的に、「グループ・グローバルTQM大会」を、2010年より毎年開催してきました。2024年は、第14回大会を開催し、グローバル各地域・事業所から選出された2,000件を超える改善事例のうち、代表して16件が優秀な取り組みとして発表され、経営層や受賞チーム間での交流・意見交換が行われました。

グランプリを受賞した彦根工場においては、女性視点を活かしながら課題を抽出し、重い部材の運搬・持ち上げを軽減する新設備を開発することで、生産現場におけるDE&Iを推進し、全ての人々が働きやすく、生産性の向上にもつながる改善活動を実行しました。これにより、E8コミットメント「Empowerment: すべての人々が自分らしい毎日を歩める社会づくり」につながる価値創造を実現しました。

同じくグランプリを受賞した佐賀工場では、開発・生産・ビジネスが連携し、現物現場でチームワークを強化することで、鉱山用タイヤの断トツ商品に使われるスチールコード生産における匠の技の伝承、自動化の導入を実現し、「Efficiency: モビリティを支え、オペレーションの生産性を最大化すること」の価値創造につなげました。



従業員による事例発表



表彰式



汐満 純奈
彦根工場 製造部
製造第3課 第3成型係

私たちは誰もが最高のパフォーマンスを発揮できる職場を目指し、改善に取り組んできました。かつて「女性だからムリ! やらせられない!」と思われていた作業に対し、諦めずに粘り強く取り組むことで、多様性を受け入れてもらい、職場の改善が進みました。その結果、人的創造性の向上につながったと実感しています。

女性社員は自ら、「守られる」立場から「自立・自律」したマインドへと変革を遂げ、一人ひとりがそれぞれの立場で気づきを得ることで、従来の常識を打破する大きな改善を実現しました。

共に改善に取り組んできた仲間感謝し、これからも一人ひとりがイキイキと働ける職場を追求することで、新たな価値の創出に貢献していきます。

ブリヂストングループアワード

ブリヂストングループアワード(BGA)は、全組織・全従業員を対象としたグローバル最高位の表彰制度であり、使命・ビジョン・ブリヂストンDNAをしっかりと反映し、E8コミットメントを体現するブリヂストンらしい価値創造に特に貢献した活動を選定し、その功績と功労を表彰します。

表彰式や社内コミュニケーションを通じて、優れた取り組みをグローバル全体で共有することで、従業員の誇りや、さらなるやりがいにつなげると同時に、一人ひとりの意識向上・一体感の醸成を図っていきます。従業員による様々な活動を波紋の輪のような持続的な広がりにつなげ、E8コミットメントを軸とした価値創造を増幅していきます。

グローバル優秀事例／E8コミットメント創出価値

2024年は、8件の優秀事例をグローバルで共有し、表彰式にてグローバル経営メンバーから受賞チームへ直接感謝の気持ちが伝えられ、喜び・感動を共有しました。

■ イノベーションによって断トツ商品を強化し、顧客価値を増幅させ、サステナビリティにも貢献した事例

- ・ 鉱山ソリューションの提供を通じた鉱山オペレーションの生産性・サステナビリティ向上への貢献
(グローバル) **Extension**

- ・ ENLITEN技術搭載Turanza EVの投入
(北米) **Energy**

- ・ モータースポーツ活動を通じた技術イノベーションとサステナビリティの加速(北米) **Emotion**

■ 社会と強固な信頼関係を築くことに貢献した事例

- ・ ランフラットテクノロジーを用いた救急車用タイヤの開発
(日本) **Extension**
- ・ 地域社会に貢献する次世代のモビリティ人財育成プログラムの構築(オーストラリア) **Empowerment**

■ バリューチェーン全体のビジネスコストダウン、生産性向上、サステナブルなオペレーションを強化する事例

- ・ “究極の円さ”を実現するモノづくりの進化
(日本) **Efficiency**
- ・ タイヤ検査工程の自動化(欧州) **Efficiency**
- ・ 天然ゴム農園におけるデジタルツールの導入
(アフリカ) **Efficiency**



表彰式



Mark Stevens
Group Apprenticeship
Program Manager
BSAPIC BSAL Human
Resources

ブリヂストン オーストラリア・ニュージーランド(BSANZ)で実施しているBridgestone Apprenticeshipプログラムは、技術に秀でているだけでなく、ブリヂストンのコミットメントである持続可能な社会の実現を支えていくという情熱を持った技術者をサステナブルに育成する取り組みです。若い人財に対し、必要なツール、メンターシップ、実際に働く経験を提供するとともに、地域社会への連帯感を高めさせるプログラムです。

「Value Creation for Society(社会価値の創造)」部門でブリヂストングループアワードを受賞したことは、とても刺激になりました。事業戦略と人財戦略を連動させることで、持続的に価値を創出することができることを再確認できました。今回の受賞を励みに、さらに多くの人を対象を拡大し、社会価値を創造していきたいと思います。

本プログラムを通じて、地域社会・人財に希望を与え、機会を拡大し、より強固なコミュニティの構築に貢献することで、E8コミットメント、特にEmpowermentとEmotionの実現に貢献していきます。これからも、小さなことから着実に歩みを進めていきます。